

## がん検診啓発ラジオ番組の放送について

制 作： ROK ラジオ沖縄 （864kHz）  
 企 画 名： 「受けよう！ウチナ～！がん検診！」  
 企画実施日時：平成23年9月1日～9月30日（1ヶ月）  
 協 賛： 株式会社 宮平乳業、医療法人友愛会豊見城中央病院

### 企画趣旨

公益財団法人 日本対がん協会では、昭和35年（1960年）から毎年9月をがん征圧月間と定めている。そこでラジオ沖縄では、「受けよう！ウチナ～がん検診キャンペーン」と題し、9月中CMや特別番組などを放送し、県民へがん検診受診を訴えます。

### がん検診啓発CM放送期間

平成23年9月1日（木）～9月30日（金）（CM放送1日 3～4回）

### 特別番組について

#### 番組名：チャットステーションL



チャットステーションLとは、毎日変わるテーマに沿って、リスナーの方からメッセージとリクエスト曲を募集し、コミュニケーションを図っていくラジオ放送番組です。

（平日 月～金 午後2時～4時放送）

### がん検診啓発特別番組放送日：平成23年9月30日（金）

放送時間：午後2時～4時（120分）

パーソナリティー：玉城美香

ゲ ス ト：渡嘉敷 みどり先生（那覇市立病院 産婦人科部長）

樋口 美智子（那覇市立病院 医療支援部総合相談センター長）

國吉 秀樹（沖縄県健康増進課 課長）

### 企画概要

お昼の人気番組チャットステーションLを「受けよう！ウチナ～がん検診スペシャル」としてプログラムし、身近な病気「がん」について取上げます。

知っているようで意外と知らない、がん診療や緩和ケア、高額医療制度などを分かりやすく説明し、専門家をゲストに迎え、がんの医療制度や予防、治療方法など、正しい情報を紹介します。

番組内では随時リスナーからの意見やお便りも募集。大切な人への応援メッセージや治療への不安や現状など「生の声」を拾い上げ全県に届けます。



平成 23 年 10 月 7 日

## がん検診啓発ラジオ放送企画報告書

県民へのがん検診啓発活動として、ROK ラジオ沖縄と沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会がタイアップし、以下の通り実施したので報告する。

### ➤ がん征圧月間特別企画：ラジオコマーシャルについて

協 賛：株式会社 宮平乳業、医療法人友愛会 豊見城中央病院

9 月はがん征圧月間であることから、ラジオ沖縄では、9 月 5 日～9 月 30 日の 4 週間、がん検診の早期受診を啓発するラジオコマーシャルを放送した。

### ➤ がん検診啓発特別ラジオ番組について

制 作：ROK ラジオ沖縄

協 賛：株式会社 宮平乳業、医療法人友愛会 豊見城中央病院

番組名：「チャットステーション L」

テーマ：「受けよう！ウチナ～！がん検診」

放送日：平成 23 年 9 月 30 日（金）午後 2 時～4 時（120 分）

出演者：パーソナリティー 玉城 美香

ゲスト：國吉 秀樹 （沖縄県健康増進課課長）

渡嘉敷 みどり（那覇市立病院 産婦人科部長）

樋口 美智子（那覇市立病院 医療支援部総合相談センター長）

聴取者メール応募数：230 通

プレゼント応募数：65 通

内 容：

聴取者から寄せられる「がん検診」についてのエピソードを基に、県内の「がん」の現状や予防、治療方法、医療制度、検診の重要性等について、専門のゲストを招き解説を行なった。

### 沖縄県の「がん」の現状について（沖縄県健康増進課課長 國吉 秀樹先生）

沖縄県の年間のがん罹患患者数は、約 3500 人（男性 2000 人、女性 1500 人）、罹患率の高いがん種は男性（1 位 肺がん、2 位 大腸がん）、女性（1 位 乳がん、2 位 大腸がん）また、がん種ごとの死亡率では全体（1 位 肺がん、2 位 大腸がん、3 位 胃がん）が挙げられ、特に、県内の罹患率の高いがん**大腸がん**、**子宮頸がん**は、どちらも検診やワクチン等を受けることが、**予防や早期治療に繋がる**ため、積極的に受診するよう、県民へ検診の重要性を訴えた。

## がん検診の検査方法と子宮頸がんワクチンについて

(那覇市立病院 産婦人科 部長 渡嘉敷みどり先生)

まず、県民へ知ってもらいたい「健診」と「検診」の違いや、がん種ごとの検査方法について説明された。**がんは早期に治療する事で、完治する可能性が高い**ことから、改めて、早期発見、早期治療の大切さが伝えられた。それに踏まえ、子宮頸がんについては、ワクチン接種することで、未然に予防することができることから、公費接種対象者である中学1年生～高校1年生は、できるだけ受診するよう呼びかけられた。他にも、聴取者からは、悪性と良性腫瘍の違いや、がんのステージについてなど、数多くの質問が寄せられた。

## がん相談支援センターと医療ソーシャルワーカーの役割

(那覇市立病院 医療支援部総合相談センター長 樋口 美智子氏)

医療ソーシャルワーカーである樋口氏からは、実際にがんに罹った方、また、患者さんのご家族の方へのケアについて説明があり、県内のがん診療拠点病院に設置されているがん相談支援センターや、医療ソーシャルワーカーの役割について説明した。相談内容としては、医療費に対する悩みや医師とのコミュニケーションの取り方について悩みを抱えている方が多く、悩みや不安を言葉にするのは難しいが、一人で悩まず、是非多くの方に相談室を利用してほしいと呼びかけられた。また、様々な情報を得るためにも患者必携「おきなわがんサポートハンドブック」も上手く活用してほしいとコメントした。

最後に、國吉秀樹先生（縄県健康増進課課長）より、「検診」は症状がでてからでは遅い。日頃から、**自分の健康に関心を持ち、自分自身のためだけではなく、ご家族や身近な人のためにも、恐がらず検診を受けて欲しい**と、聴取者へ呼びかけられた。聴取者からは、「子供のためにも毎年検診に行こうと思う」や「自分は大丈夫と思わず、ちゃんとがん検診に行こうと思う」等、番組へ対するメッセージが、230通寄せられた。

